

シリアの文化遺産と

現在の危機下における文化遺産保護活動

Syrian Cultural Properties and their Protection under the Current Conflict

シリア・アレッポ国立博物館館長
ユーセフ・カンジョウ博士

Director of Antiquity and Museum
of Aleppo, Syria

Dr. Youssef Kanjou



1971 年生まれ

2002 年にメキシコ国立自治大学にて人類学の博士号 (Ph. D) を取得。遺跡出土の人類遺体の DNA や古人骨の研究を専門とする。日本隊の調査するデデリエ洞窟をはじめ、ポーランド隊によるテル・カラメル遺跡、フランス隊のテル・アスワド遺跡、スペイン隊のハルーラ遺跡など、シリアの代表的な先史遺跡における各国調査隊とシリアとの共同調査を実施。2003 年からシリア・アレッポ国立博物館学芸員、同館発掘局長を経て、2011 年同館館長に就任。

2013 年 11 月 21 日 (木)

午後 2 時 45 分 ~ 4 時 15 分

人間社会講義棟 201 号教室

Thu. 21th Nov. 2:45-4:15 PM

定員 150 名

英語 (講演後に日本語による解説あり)

シリア・アラブ共和国では 2011 年 1 月に始まった武力衝突が激化し、いまや内戦状態になっています。たくさんの人々が犠牲になり、町や文化遺産が破壊されています。本特別講演会ではシリア・アレッポ国立博物館館長のユーセフ・カンジョウ博士をお招きし、シリアとその豊かな文化遺産、そして現在の危機的な状況下における文化遺産保護活動についてお話しいたします。

Syrian conflict began in January 2011 and still continues. A large number of victims occurred and towns and cultural properties are severely damaged. Okayama Orient Museum invites Dr. Youssef Kanjou, the Director of Aleppo Museum, Syria to give a special lecture about Syria and its great cultural properties and their protection activities under the current conflict.

問い合わせ

人文学類 足立拓朗研究室

内線 : 5328

mppnb@staff.kanazawa-u.ac.jp